２０２３年１１月５日　Ｎｏ．３６９２

先週の講壇から　　〝神の家族〟

マルコによる福音書 第３章 31 節～35 節

聖句「見なさい。ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、また母なのだ。」(3:34,35)

１．《捨てられた子》　神学生時代に奉仕していた教会学校に、エリちゃんという小学校３年生の子がいました。両親が離婚して、父親と祖母と三人暮らしでした。利発で感受性が強く、キレ易い子でした。「母の日」礼拝で、私はカッコウがモズの巣に託卵する話をしました。自然の法則とは言え、自分の雛の声を聞かずに立ち去る親鳥の心、実の親を知らぬまま世渡りをしなければならない雛は、どんな気持ちなのだろうか。その上で「イザヤ書」49 章 14～16 節を紹介しました。

２．《母親の愛情？》　世の中には「父親はともかく、母親の愛は絶対だ」という固定観念が今も根強く残っています。これを「母性神話」と言います。実際には、母親に捨てられた子、虐待される子、養育拒否される子もあり、母の愛は自明のものでも絶対のものでもありません。母の溺愛、歪んだ愛もあります。イエスさまが三度目の「受難予告」を為さった直後に、ヤコブとヨハネの母親は「自分の息子らを右大臣左大臣に」と願い出ます。イエスさまの家族も例外ではありません。気が変になったと言われて取り押さえに来たり、礼拝の最中に、人を遣って呼び出したりします。マリアさんも「聖母」と持て囃す程の人ではありません。

３．《御心を行なう》　伝統のある教会には、先祖代々の信徒の一族が居られます。素晴らしいことです。しかし「この教会は自分の祖父が建てた」等と既得権を主張するかのように発言し始めたら、もう御仕舞いです。イエスさまは「私の家族は血肉によらず、神の御心を行なう者だ」と宣言なさいました。礼拝を共にしている人たちを見回して「兄弟姉妹、父母」と言われます。外に立ったまま、中に入って来ようとしない家族とは対照的です。「御心を行なう」とは「御心」を「我が心」とすることです。折角の善き業も心の伴わない形式だけでは意味がありません。常に自らを振り返りながら「どうすることが、あなたの御心に適っているでしょうか？」と問い掛け、祈り求めながら進むのです。母親が我が子の成長を願う時、自分の願いはさて置き「この子にとって一番良いことは何でしょうか？」と悩むのに似ています。この世の中に自明のことは何一つありません。

朝日研一朗牧師